

続・極私的市民運動の記録

<その5>「11・22事件」



この冊子の題字、私を書いた。表題は、金鐘八さんの提案。日本の新聞記事とともに韓国の新聞記事を翻訳して出版した。B五版、四〇頁の冊子だ。翻訳はむくげの会のメンバーが分担した。

「11・22」、これは一月二二日のこと。一九七五年、韓国に留学中の在日韓国人が検挙された日だ。日本で救援のための活動が始まった。一般に「11・22事件」

と言われた。支援の会の名称は、「11・22在日韓国人留学生・青年不当逮捕者を救援する会」、事務局長は桑原重夫さん。代表はいなかったようだ。「11・22Q」と略称していた。

冊子には、一三名の名前がある。そのご逮捕者が増えた。神戸関連でも、李憲治さん、金泰洪さん、徐聖寿さんが、検挙された。



同志社大学卒業の金哲顕さんは、神戸でもキリスト教会を中心に支援の会がつけられた。神戸花時計前でのハンガーストライキには辻建牧師、仲本幸哉牧師らが参加した。夜は、ぶっそうなの？、雲内教会（神戸市灘区）に移動した。私は、ハンガーストライキには参加せずにビラ作りなどに走り回っていた。

資料を探していたら『金哲顕君らへの死刑執行阻止全ての政治犯の即時釈放』と題する冊子（B 五、一六頁）があった。発行は、在日韓国人政治犯の即時釈放を要求する 2/20 兵庫日韓連帯集会実行委員会（呼びかけ人、山口和男（金哲顕君を救う兵庫県民の会）他+四団体）とある。連絡先は、神戸学生青年センター。ハンガーストライキの記録もある。この兵庫県民の会のチラシも 2 種類ある。このチラシの県民の会の連絡先は、仲本幸哉牧師の雲内教会になっている。

また、別の資料もでてきた。『「11・22 救援会」神戸グループ』（一九七六年九月一日発行、連絡先：日本キリスト教団神戸雲内教会、B 五、一六頁）だ。「一八名の青年への二審死刑重罪判決攻撃に抗議を！ 11・22 不当逮捕された在日韓国人留学生・青年らを救おう」が表題。桑原重夫さんの論文（『破防法研究』一九七六年八月）と『世界』一九七六年九月の論考などが収録されている。表紙の字からすると土方克彦さんが編集したもののようだ。手書きの時代は、筆者を特定できるので便利だ。「五〇円」と赤いスタンプがおしてある。

金哲顕さんは、青丘文庫の「日韓在日キリスト教史研究会」（代表・韓哲曦、事務局長・蔵田雅彦）で発表してもらったこともある。テーマは、「私とキリスト教」（一九九〇年七月）。宇宙論的な、

キリスト教とはあまり関係ないような内容だったような記憶がある。



最初の『濁流に抗いて』、よく売れて、何回も増刷した。たしか八千部ぐらい売れたのではないかと思う。

先日（九月二七日）、鄭承博さんの韓国語の本の出版記念会で、金鐘八さんと会った。金さんは一万部売れたとのこと。また金さんによると最初は神戸の印刷所、あとは当時新左翼専門？の印刷を一手に引き受けていた関西プリントセンターだという。私の手元にこの冊子が 3 冊残っているが、表紙の色が赤とクリーム二種類ある。神戸の印刷所は、共同出版。当時、そこで鳥井一平さん（移住者と連帯する全国ネットワーク）が働いていた。私の Facebook に鳥井さんから「印刷に関わった思い出深い表紙です。神戸大学 11.22 救援会も結成」とコメントがあった。私は、神戸大学に 11.22 救援会があったことは知らない。後日の鳥井さんからのメールには、「当時神戸大学二課程自治会が中に入って朝文研と韓文研のブリッジ共闘として神戸大学 11.22 救援会ができました」とのこと。

また資料を探してみると『1975.11.22「北朝鮮スパイ団事件資料（新聞）―不当逮捕された在日韓国人・留学生・青年・釈放のために―』（1975 年 12 月 1 日発行、11・22 救援会）があった。B 五、一六頁。日本の新聞記事と韓国の新聞記事（東亜日報、一九七五年十一月二二日）だ。翻訳はむくげの会の佐久間英明さんと鹿嶋節子さんと私。これも手書きなので字で分かる。表紙も私の

字だ。どうも『濁流に抗いて』は、この冊子の印刷所版として発行されたようだ。当時の韓国の新聞記事は漢字が多い。翻訳上はほんとうにたすかる。

二号は、一九七六年十一月二二日発行。B 五版、八八頁。一号よりだいぶ、ぶ厚い。新聞記事、関係者の証言が貴重だ。表紙の題字に、また私の字が使われてる。うれしい。



学生センターの朝鮮語講座は、この事件と変な？関係がある。釈放されて日本にもどった金東輝さんが朝鮮語講座の講師になった。人気講師で、ビール好きの生徒と特に気が合い授業中から飲んでいたという話も聞いた。のちに「帰国して日本の様子をみるのにちょうどいい期間だった」と言っていた。その後、同じく釈放された柳英数さんも講師になった。柳さんは、奥さまと人気の韓国料理店を開いていて、むくげの会の「グルメ会」でも二、三度訪問した。

私の手元には、金東輝さんの『祖国と私―帰日韓国政治犯・金東輝氏の証言―』（一九八一年十一月二二日、在日韓国人政治犯を救援する家族・僑胞の会発行、B 五、一六頁、二〇〇円）がある。表紙の写真は、「公判廷よりバスで拘置所にむかう 11.22 事件被告人たち。中央は金東輝氏」とある。



在日政治犯ではないが、京都大学に留学中に朝鮮総連と接触したとの容疑で帰国後逮捕された張義均さんがいる。私も留学中に

会ったことはある。

張さん逮捕の新聞記事に私の名前がでていと韓国の友人から連絡があった。後日、送ってくれた。読んでびっくりした。私が彼を「包摂」したことになる。もちろん、ちがう。

韓国でも地方の新聞は、当局の発表を長々と掲載する傾向があると聞いた。起訴状をそのまま掲載したようだ。

その新聞記事、今回、学生センターの書庫？を大搜索したが見つからない。残念だ。

先日、張さんと大阪で久しぶりにあってあいさつした。この新聞記事のことも話した。彼は、結局八年間も刑務所暮らしをしたという。ひどい話だ。もちろん彼も再審裁判で無罪となっている。金東輝さんには、むくげの会のゲストディにも来ていただいている。テーマは、「「スパイ」として不当逮捕判決から四〇年・再審無罪判決を受けて」、二〇一八年一月一六日。

再審裁判が遅くなった金哲顕さんも再審を準備中とのこと。それぞれに損害賠償金を得ても大事な青春はもどって来ない。



金泰洪さんは、獄中で健康の研究をして本も出している。私は今も年に二、三回飲んでい。私は有機農業運動にも関係し、有害添加物などにうるさい方だが、泰洪さんの方が、二、三倍、嚴格だ。でも飲むときは適当なもので飲んでい。学生センター朝鮮史セミナーの記録をみたら、一九九八年六月一三日に、「政治犯としての私」というテーマで講演もしている。

徐聖寿さんは兵庫高校、神戸大学の後輩でもある。当時は知り

合いではなかったが、近年民団の新年会などでときどき会う。市内で韓国料理店を始めたこともあった。むくげグルメの会の例会でもいった。その後、閉店した。なぜか、グルメ会で訪問した店はその後閉店する？

救援のためにみんないろんなことをした。拘留中に面会するために、「にわか恋人」になって会いに行ったり、「親しかった先輩」として面会したり、いろんなことがあったようだ。また、韓国留学中、友人が次々逮捕されるので、下宿をほんとにそのままにして日本に逃げかえった留学生もいたという。



李哲さんは、逮捕される前に会ったことはない。でもなぜか、帰日後、よく会っている。最初は、映画「世界人民に告ぐ！」上映運動が最初だったかもしない。この映画は監督・脚本は岡本愛彦さん、撮影は高岩仁さん。学生センター等で自主上映会を開いた。でも一九七七年公開とネットにある。そうだとしたらまだ李哲さんは拘留中だ。でも、これもどうでもいいだろう。

センターでは、コリア関係の映画をよく自主上映していた。現在は、元町映画館ができたので？、学生センターに回ってくることも少なくなった。学生センターでの「コリア映画自主上映会の記録」も書いておく必要があるようだ。



《11.22》から五〇年、当時私は二五歳。ことしは、小山帥人さん、西村秀樹さんがドキュメンタリー映画も企画しているという。

ぜひまた、学生センターでも上映したい。いや、元町映画館での上映になるかもしれない。



■あとながき■

私は、小さな冊子でも「まえがき」と「あとながき」がないと落ちつかない性分です。今回は、あとながきを少し書くことにします。

このシリーズ、1～4は、以下のものです。

<その1>市民運動と印刷機たち

<その2>広島で被爆・孫振斗さんの裁判

<その3>市民運動とパソコンたち

<その4>東亜日報を読む会

テーマがけっこうばらばらです。が、多方面から市民運動の記録を書きたいのです。でもあくまで、極私的な記録です。

もともと『極私的エッセイ—コロナと向き合いながら』（社会評論社、二〇二一年）全七話の続編です。以上、いずれも「飛田、エッセイ等一覧」

<https://ksyc.jp/mukuge/hida-esseinadotirann.htm> でみることができます。ご覧いただければ幸いです。

この「11. 22」についてのエッセイは、当時の日本での支援運動の一端を韓国の人々にも知っていただきたいとの思いから韓国語版（翻訳・山根俊郎）もつくることになりました。

もともとコロナに抵抗して、ひまつぶしの？に始めたエッセイですが、ここまで書いてきました。そして、実は、まだ書くテーマがあるのです。いましばらく、おつきあいをよろしくお願いします。

飛田雄一（ひだ ゆういち、hida@ksyc.jp）

1950 年神戸生まれ。公益財団法人 神戸学生青年センター理事長。
在日朝鮮人史運動史研究会関西部会代表、強制動員真相究明ネットワ
ーク共同代表、神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査
する会事務局長、むくげの会会員。著書に、『日帝下の朝鮮農民運動』
（1991 年、未来社）、『現場を歩く 現場を綴る—日本・コリア・キリ
スト教—』（かんよう出版、2016 年）、『心に刻み、石に刻む—在日コ
リアンと私』（三一書房、2016 年）、『旅行作家な気分—コリア・中国
から中央アジアへの旅—』（合同出版、2017 年）、『再論 朝鮮人強制連
行』（三一書房、2018 年）、『極私的エッセイ—コロナと向き合いなが
ら』（社会評論社、2021 年）など。

飛田雄一「続・極私的市民運動の記録」

<その5>「11. 22事件」

2025 年10月15日発行

執筆・編集・印刷・発行 飛田雄一（ひだ ゆういち）

〒657-0011 神戸市灘区鶴甲 4-3-18-205

e-mail hida@ksyc.jp
